

第7回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会 議事録

開催日時	令和8年4月15日(水)18:30~19:35
開催場所	北川村民会館 大ホール(オンライン併用)
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 委員 岡宗委員、橋本委員長、山崎委員、熊瀬委員、土居委員、百々委員、井津(文)委員、田所委員、稲毛委員、有光委員</li> <li>■ アドバイザー 野島アドバイザー</li> <li>■ GPMO 成松、湯川(オンライン参加)、山内</li> <li>■ 事務局 濱渦教育次長、堂脇次長補佐、堅田次長補佐、植田主幹</li> </ul>
議題	<p>(1)開会</p> <p>(2)前回内容の確認について</p> <p>(3)北川村保小中一体化施設整備基本計画について</p> <p style="padding-left: 20px;">1)意見募集の結果及び修正箇所の確認</p> <p style="padding-left: 20px;">2)各委員及び各アドバイザーより</p> <p>(4)教育長挨拶</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議事次第</li> <li>・資料1 第6回北川村保小中一体化施設整備基本計画検討委員会議事録</li> <li>・資料2 北川村保小中一体化施設整備基本計画(案)に関する意見募集の結果</li> <li>・資料3-1 北川村保小中一体化施設整備基本計画</li> <li>・資料3-2 北川村保小中一体化施設整備基本計画【ダイジェスト版】</li> </ul>
議事経過	<p><b>(1)開会</b></p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>議事次第に沿って会議を進行する旨を説明。</p> <p>なお、岩城アドバイザーは異動に伴い退任。土居委員、井津(信)委員、長岡アドバイザーは欠席。</p>
議事経過	<p><b>(2)前回内容の確認について</b></p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>【資料1】に基づき説明。</p> <p>委員に対し自身の発言内容の確認と追記・修正があれば申し出るよう依頼。</p> <p>→特に異論がなかったため、【資料1】を概要としてホームページに掲載する旨報告。</p>
議事経過	<p><b>(3)北川村保小中一体化施設整備基本計画について</b></p> <p>1)意見募集の結果及び修正箇所の確認</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>【資料2】・【資料3】に基づき、意見募集の結果及び計画の修正箇所を説明。</p> <p>なお、配置計画案については野島アドバイザーより説明。</p>

配置計画案について、以下の質疑があった。

**【田所委員】**

配置計画案A・Bの2案は検討中ということでしょうか。

**【事務局】**

今回の基本計画は、校舎の大まかな配置計画案や諸条件を整理するもの。第7章にあるように、本事業は単なる施設更新ではなく、保育所・小学校・中学校の機能的な連携を主眼としており、今後の設計に当たって、より具体的な配置計画を提案いただく方針としている。したがって、現段階でどちらかにしなければならないというようなものではなく、今後、本計画をベースに、具体的な施設配置や平面計画を検討していくものとした。

**【田所委員】**

配置計画案の面積の中で必要諸室を収めることができるのか。

**【事務局】**

今回提示している必要諸室については概ねこの面積の中で満たされることを前提としている。ただ、地域住民が利用しやすい動線や、保育所・小学校・中学校の交流をどの場所で促すかといった観点を含め、具体的な諸室の配置については今後の設計段階において検討していく。

**【田所委員】**

保育所と小中学校では離乳食などの給食における対応が異なるが、調理場の扱いは一緒にするのか、別々にするのか、どのように考えているのか。

**【事務局】**

調理場については、今回の基本計画では具体的な配置や方式を定義していない。これまでの意見では、調理場を一つに集約し、保育と学校へ供給する案もあったが、一方で、保育所では離乳食やアレルギー対応など、専用の設備が必要となるため、どこまで集約できるかは検討の余地がある。したがって、調理場を一体化するか、分離するかについては、今後、配置を含め、検討していく。

**【野島AD】**

調理場の在り方の一例だが、福島県内で関わっている設計中の事例(双葉町)では、3歳児以上は小中学校と共用の調理場による給食を提供する予定だが、成長段階に応じて食事内容が大きく異なるため、0～2歳児向けには離乳食やミルクに対応した専用の調理室と調乳スペースを別途設けている。いずれも衛生面をはじめとする配慮が不可欠である。

今回の基本計画では、調理場の集約・分離の方針までは十分に詰められていないが、必要な面積は確保されており、設計段階において詳細を検討すればよいと考えている。

個人的には、食育は子どもの成長にとって重要なテーマであり、可能であれば保護者や地域住民と一緒に食べられる環境づくりができるとよいのではないかと考えている。

**【井津(文)委員】**

設計プランを採用するのは誰か。

### 【事務局】

設計プロポーザルに当たっては、別途審査委員を選任し、基本計画で示した観点が反映されているかを基準に、複数の事業者から一の事業者を選定する。選定された事業者とは、その後の詳細検討の中で、教職員や児童生徒の意見も踏まえながら、諸室の配置や動線など、具体的な内容を詰めていくことになる。このため、各段階に応じて必要な選定プロセスを設け、より良い設計となるよう進めていきたい。

### 【野島AD】

補足させていただくと、設計者の選び方には大きく三つの方法がある。一つ目は入札で、価格を基準に決める方法、二つ目は設計コンペで、設計案そのものを比較して決める方法、三つ目が設計プロポーザルで、設計者(人)を選ぶ方法である。プロポーザル方式の場合でも、設計案を出してもらって、その考え方や設計に対する姿勢を総合的に評価して選定することになる。また、設計を進めるに当たっては、地域の方々や先生方との対話を重ねながら進めていくことを条件として示しておくとうと考えている。

### 2)各委員及び各アドバイザーより

取りまとめに当たり、各委員及び各アドバイザーから、今回参画して感じたことや今後に向けた期待に関するコメントを頂いた。

### 【岡宗委員】

基本計画の内容は、これまでの検討会での議論に加え、地域の方々、保護者、児童生徒から頂いた意見を踏まえてまとめていただいているため、特に異論はない。今後、役場としては、この計画に整理された意見を実現するための施設整備について検討を進めていくが、その際には財政状況も踏まえながら進めていく。

北川村では人口減少への対応を最重要課題としており、子育て・教育環境の充実はその柱の一つとして位置付けている。今回の施設についても、村内外の子どもたちが「北川村で学びたい」と思えるような魅力ある環境となるよう、引き続き検討を進めていきたい。

また、検討を進める上では、子どもたちにとって本当に良い環境になるかが最も重要な視点になるため、教育委員会とも連携しながら進めていく。検討委員の皆様にも引き続きご協力をお願いしたい。

### 【山崎委員】

今回、このような場で皆様と一緒に様々なテーマに沿って意見を出し合い、これからの教育をより魅力的で充実したものにしていくための施設について考えることができ、自分としても多くの学びがあった。

野島アドバイザーからは配置計画のB案を示していただいた。当初は園庭がどうなるのか、これまでの遊びが続けられるのかといった不安もあった。熊瀬委員とは「図面だけでは広さや距離感が分かりにくい」と話していたが、保育所としては園庭が広くなり、これまでの遊びもできる上に、学校との交流も進められそうだと感じた。また、園舎が斜めに配置されることで、より開放的な雰囲気になる点も良いと思った。

今後も話し合いを重ねながら、子どもたちのために、地域の方々とも関わり合えるような園舎・校舎ができることを楽しみにしている。自分自身もできることがあれば、引き続き協力していきたい。

### 【熊瀬委員】

校長という立場から子どもたちの視点で考えることが多かったが、新しい校舎ができれば

ば、子どもたちが「学校へ行くのが楽しい」と実感できるような環境にしたいと思っている。

今回示された配置計画案についてはまだ詰めていく必要があると感じている。現在は学校の敷地内のことを中心に考えているが、実際には敷地外とのつながりや周辺環境とのバランスも重要であり、出入りや生活動線も含め、今後しっかりと検討していく必要があると考えている。

いずれにしても、子どもたちが一番大切であり、子どもたちが楽しく過ごせる環境を目指して、微力ながら考えていきたい。引き続きこうした場があれば、今後も協力していきたい。

#### 【百々委員】

これまで施設について検討を進めてきたが、保育所・小学校・中学校の連携はとても大切な視点だと感じている。

一方で、子どもたちの成長には、学校だけでなく、教育委員会の取組や、社会福祉協議会の活動など、地域全体の関わりも大きく影響してくると思っているので、そうした学校外の取組も含めて議論できると、より効果的な環境づくりにつながるのではないかと感じている。

#### 【井津(文)委員】

一般住民としては、新しい施設に図書室ができて、皆が利用できるようになり、そこで子どもたちの様子を見ることができのを楽しみにしている。

ただ、建物が新しくなって魅力が高まる一方で、現状では中学校になると村外の学校へ進む子どもたちもいる状況がある。できればその流れを少しでも止め、逆に村外からも「この村で学びたい」と思ってもらえるような学校にしていきたい。

#### 【田所委員】

教育現場に直接関わっているわけではない一般の立場だが、議論をする中で多くの興味が湧き、今後はこういう方向に進むのがよいのではないかと感じる場面もあった。

北川村は子どもの数が少ないという現状があるが、今の状況に合った校舎づくりができたのではないかと感じている。

今後、校舎づくりについては専門の設計士がしっかりと取り組んでくれると思っているが、それと同時に、保護者への丁寧な説明も大事になってくると思っている。これから先、先生方や保育士の方々はますます大変になると思うが、ぜひ頑張ってください。

#### 【稲毛委員】

保育所・小学校・中学校の建物が一つの場所に集約されることで、移動が不便だったり、子どもたちに負担が掛かっていたところが軽減されるのではないかと期待している。先生方にとっても、子どもたちにとっても、より負担の少ない形で、魅力のある環境になっていけば良いと思っている。

自分は保護者でもあるが、卒園や卒業をすると保育所や学校に行く機会はほとんどなくなってしまっていると感じている。教育機能の整備だけでなく、地域の人たちがいつでも立ち寄って交流できるような場所になってほしいし、自分自身もそうした場を活用したいと思っている。

#### 【有光委員】

自分には分からない分野も多かったが、説明を聞く中で色々興味湧き、今後どのよ

うに学校づくりを進めていくのがよいか、考えるきっかけにもなった。

特に大事だと感じているのは、建物をつくることそのものよりも、完成した後、どのように活用していくかだ。住民や先生がどのように関わりながら使っていくかによって、この施設の価値は大きく変わってくると思っている。

#### 【野島AD】

こうした機会を皆様と共有できたことを嬉しく思っている。今回の検討はこれで終わりではなく、むしろここからが始まりだと感じている。また施設が完成しても、それで終わりではなく、ソフト面も含めて学校づくりは続いていくものだと考えている。

普段から考えていることだが、学校づくりは人づくりであり、村づくりでもある。熊瀬委員からもあったように、周辺環境とのつながりも含めて総合的に考えていく必要がある。また、完成後も改善を重ねられる環境を整えることが大切だと考えている。

先生方だけでなく、行政や村民の皆様がどのように継続的に関わっていけるかも重要だと思っている。今回のようなつながりが今後も続き、未来づくりにつながっていくことを願っている。

#### 【橋本委員長】

検討が始まった当初は、ここまで具体的な内容になると想像していなかったが、多くの方々のご協力のおかげで、より具体的な計画をまとめることができたと感じている。今後は、この計画を基に、立体的な設計へとつなげていく作業に移るが、その際にも、皆様のご協力を得ながら進めていきたいと思っている。

学校現場にいた経験があるが、振り返ると多くの校舎は昭和に建てられ、建物自体は平成・令和と変わらない一方で、教育の手法は日進月歩、大きく変化してきた。自分自身も、その変化に合わせて努力してきたことを覚えている。かつてはクラス単位の活動が中心だったが、今は個別学習やグループ学習など、学びの形が大きく変わっている。

また、AIやタブレットが導入されても、それだけで成り立つわけではなく、学校全体としてそうした環境をどう整えるかが重要だと感じている。

これからも学び続けながら、より良い子育て・教育環境づくりに向けて取り組んでいきたい。ぜひ、今後とも協力をお願いします。

#### 【長岡AD】(事務局代読)

基本計画の最終案が取りまとめられたことは、委員の皆様、村民の方々、事務局がこれまで真摯に議論を重ねてきた成果であり、深く敬意を表する。

本計画は、今後10年、20年、50年先の北川村、更には中芸地域、安芸郡を担う若者の育成と地域の存続・発展の基盤を形作るものである。責任の重さを感じつつも、子どもたちや地域の希望となる拠点づくりに関わったことに心から感謝申し上げる。

例えば、AIをはじめとする技術の発展により、人々の活動・生活・文化は変わりつつある。また、新たな価値を創造するためにも、様々な人々が連携・協働する必要性が高まっている。このような時代や社会だからこそ、変えるべきものと守るべきものを見極めつつ、どのように進んでいくかを考えていかなければならない。

今回の計画では、0歳～15歳の子どもたちが混ざり合う保育・教育環境、地域のみならず子どもを育てる環境、誰もがリラックスしてワクワクを育める「村のリビング」という目標の下、「0歳～100歳 みんなが集い、学び、みんなで作る『学びのひろば・ゆずのたね』」というコンセプトが示されており、一貫性と説得力のある内容となっていると感じている。

今後、この計画を基に具体的な設計が進められていくと思うが、子ども、保護者、地域の方々誇れるような学校像が描かれていくものと期待している。そして、北川村の学校づく

	<p>りが、全国の学校づくりの先導的な事例となることを願っている。</p> <p>最後に、これまでの真剣なご協議とご苦勞に改めて敬意を表するとともに、この事業に関わらせていただいたことに深く感謝申し上げます。</p>
--	--

議事経過	<p><b>(4)教育長挨拶</b></p> <p><b>【橋本教育長】</b></p> <p>10月の第1回検討委員会開催以来、計7回にわたり議論を重ねていただき、北川村の今後の教育の方向性及び保小中一体化施設の在り方に関する基本計画を取りまとめたことにご礼申し上げたい。</p> <p>私自身も委員として参加させていただいたが、村内の委員の皆様、村外のアドバイザーの皆様が、それぞれの立場から北川村の教育や施設の課題についてご議論いただくとともに、子ども・保護者・教職員・住民の皆様から寄せられた多様な意見に真摯に向き合いながら検討を進めていただいたことは大変有難く感じている。</p> <p>現在、我が国の教育環境は大きな転換期を迎えており、国においても次期学習指導要領の改訂に向けた検討が本格化している。探究的な学びの充実や情報活用能力の向上など、「主体的・対話的で深い学びの実装」に向けた取組が求められている中で、北川村としても、村内外から「この村で学びたい」「この村で学ばせたい」と思っただけ、魅力的で、今日的な教育ニーズに対応できる施設づくりを進めていくことが重要であると考えている。</p> <p>今回の検討委員会では、令和3年度の議論をベースとしつつ、より具体的な計画書を取りまとめたことにご礼申し上げたい。この計画書を基に、魅力的な子育て・教育環境の実現に向けた調整を進めてまいりたい。</p> <p>最後に、本計画の策定にご尽力いただいた検討委員の皆様、アドバイザーの皆様、GPMOの皆様、毎度遅くまで傍聴にお越しいただいた皆様に深く感謝申し上げます。</p>
------	---